

〔序 文〕

いま（吟味）と、これから（期待）

― 第二回神学研究会議を回顧して ―

コオデイナー 服 部 嘉 明

「今日における福音主義聖書論」が、昨年十一月に、御殿場の東山荘を会場として開催された日本福音主義神学会の第二回神学研究会議の主題であった。ここでは、日本福音主義神学会が明示する聖書の充全靈感の立場／理解と異なる立場／理解の聖書論の存在を認め、評価しつつ、当神学会が「福音主義聖書論」と言う場合に、何を内容的に意味しているかに関して、時間的な制約などのゆえに部分的にはあったが、ある程度の整理が出来たのではないかと考えられている。しかしながら、「福音主義」という表現が、現実においてはキリスト教界では、幅のある理解で受け入れられているので、更に明確化された形で、日本福音主義神学会が主張する立場／理解としての「福音主義」が、何であるかを、公的に提示してゆく必要がある。しかも、それは単に聖書学部門においてのみならず、教義学、歴史学、実践神学の諸分野においても、困難な作業ではあるけれども、地道に展開してゆかねばならない。

その点に関しては、かつて日本福音主義神学会の理事長であり、本神学会創設発起人の一人でもあった宇田進氏の

「福音主義キリスト教とは何か」(いのちのことば社)が今年三月に出版され、幾分説明されたことは極めて有意義なことであった。

第二回神学研究会議においては、福音主義聖書論が、単に、靈感、權威、無謬性／不可謬性／無誤性、などに関して論述されたのみでなく、それに呼応して、その実践的適用として、如何に釈義と説教にまで発展させられるか、が、時間的な制限を受けつつも熱心に、率直に論じられた。

会議全体は、三部にわけられ、その第一部のプロレゴメナとして、用語／概念の整理が、「靈感」「無謬性／不可謬性／無誤性」について論述され、第二部では、内容理解として、聖書学的な面と、教義学的な面の二面から、特に「靈感」「權威」に関して如何に対処すべきかが、論じられた。更に、最後の第三部では、実践的適用として、「釈義と説教」と言う観点から、新約聖書における旧約聖書の引用の諸問題が、詩篇二篇／使徒行伝四・二四―三〇、及び、創世記一―二章と申命記二四・一―四／マタイ福音書一九・三―一二、という具体的な聖書本文を取扱いながら論じられ、日本語という翻訳された聖書の權威の理解という、一般信徒にとっても極めて関心を呼ぶ課題にまでも言及された。

既述のように、第二回神学研究会議で取扱れた課題だけを考えても、今回論じられた事柄を踏まえ、今後取上げられなければならない課題は、決して少なくない。靈感及び、權威という問題との関連で、原典／写本／テキストの理解も、更に掘り下げて整理され、論述されなければならない。また、日本福音主義神学会が聖書の完全靈感を前提として主張する福音主義のものとして、靈感と權威、及び無謬性／不可謬性／無誤性を基底とした独自の聖書論(釈義の方法論をも含めて)の構成展開が必要である。しかも、その場合、独自であることは、キリスト教界の別の立場／主義／理解をもつ人々と、どの程度共通の土俵をもちつつ展開するのか、それとも、福音主義神学、特に、聖書の充

全靈感を前提とした權威を主張し、正典としての聖書六十六巻の無謬性／不可謬性／無誤性を高唱する立場から、完全に独自のものを構成展開するのか、自問しなければならない。更に、そのような神学的な営みが、福音宣教、教会形成、伝道牧会という教会の業と、具体的／実践的／有効的に関連のあるものとして受け入れられ、理解されることも、キリストの教会に仕える学会としての存在維持に今日まで努め続けて来た日本福音主義神学会が、今後もっと積極的に取り組んでゆくべき大切な課題である。

日本全国のみならず、海外にも散在し、日夜主キリストの福音宣教のため労しておられる同労の学会員の諸氏、及び本書の理解ある読者諸氏の協力と禱援を得て、日本福音主義神学会が、特に日本における福音宣教、教会形成という決定的に大切な使命を、謙虚に、そして忠実に果たさせて頂きたいものである。本書「福音主義神学」第十五号には、第二回神学研究会議の成果の一部が論文としても収録されているが、既に多くの学会員の中からは、第三回目の神学研究会議への期待と要望も寄せられていると聞いている。いまを吟味し、これからに期待されるところ極めて大きいと言わねばならない。

(大阪基督教短期大学神学科教授、神学科長)

全国理事会報告

書記
高橋久之

・一九八四年七月十六日 お茶水学生キリスト教会館
出席者（東部）丸山忠孝、横山武、佐布正義、小島彬夫、山口昇、（中部）黒川雄三、牧田吉和、（西部）安田吉三、郎工藤弘雄、鍋谷堯爾、高橋久之

報告

。西部、中部、東部各部会の活動と、米国の学会の報告があった。

主要議事

(1) 新役員の人事について

理事長 安田吉三郎（健康上の都合で一年後に再考慮する）
副理事長 黒川雄三、横山武
書記 佐布正義、高橋久之
会計 小島彬夫、工藤弘雄
会誌 鍋谷堯爾、牧田吉和、山口昇（一年後は内田和彦氏に交替）

(2) 一般会計と、会誌出版基金の決算についての報告（略）

(3) 一九八四～一九八五年度の活動方針について

。本学会と教会とのかわり方について
。創立十五周年記念行事としての第三回研究会を開催する。

立案委員として横山（長）、黒川、丸山、鍋谷の四氏を委嘱す。

時期、場所、会議のテーマについては各部会理事会で検討する。

。現在の三部会以外の地域への活動を開拓する。

(4) 会誌について

。印刷等の業務を向う三ヶ年を目途に、西部部会にゆだねる。

。論文の内容についての責任は一応編集者がとるが、疑義ある場合は各部会理事会にはかる。

。主論文は毎号、各部会で一本ずつ提出する。

。出版基金の不足がまだ続いている。これと関連して、今後各部会で特に指定のない献金収入は全国理事会会計に入れる。

(5) 全国会員名簿作成について

会員の異動のはげしさを考えてワープロで作成する可能性を考える。書記が担当。

一九八四年十一月完成予定。

(6) 神学会ニュース発行担当の変更について

西部部会より、東部部会に。

(7) 予算案について

収入
会費 九〇〇、〇〇〇円
献金 一〇〇、〇〇〇円
会誌売上 九〇〇、〇〇〇円
計 一九〇万円

支出（略）

承認する。

(8) 次回理事会は一九八五年五月二十七日とする。

1984年度 予算（全国）

収	入	支	出
会費	900,000	会誌代	900,000
献金	100,000	名簿作成費	100,000
会誌代	900,000	部費	450,000
		理事会費	200,000
		事務費	10,000
		借入金返済	390,000
		予備費	10,000
繰越	168,803	繰越	8,803
計	2,068,803	計	2,068,803

1984年度 会費出版基金会計報告

収	入	支	出
会費	508,000 ('83: 163,000)	会誌代	900,000
献金	115,750 ('83: 6,680)	名簿作成費	100,000
会誌代	83,732	部費	450,000
第2回研究会議費		理事会費	200,000
計	707,482	事務費	10,000
		借入金返済	390,000
		予備費	10,000
		繰越	8,803
支出		計	2,068,803
事務出	14,460 ('83: 7,850)		
貸出	390,000 ('83: 150,000)		
貸残	303,022		
計	707,482		

東部部会活動報告

(一九八三年八月から一九八四年七月まで)

東部部会書記

大 滝 信 也

一九八三年度

九月十六日(金)午後六時十七分から八時五十分まで、お茶の水学生キリスト教会館二一六号室で、理事会が持たれた。出席者十一名。欠席者十名。「クリスチャン科学者の会」とは、緩やかな交流を考えてゆくことにした。会員審査が行われ、二名の入会希望者が正会員として認められ、準会員一名の退会が認められた。

十一月二十八日(月)から三十日(水)まで、第二回福音主義神学研究会議が、東部主導のもとに、御殿場の東山荘を会場に行われた。

一九八四年度

二月三日(金)午後六時二十分から八時五十分まで、お茶の水学生キリスト教会館旧館四〇二号室で、理事会が開かれた。出席者十名。欠席者十一名。春の総会・シンポジウム・講演会のプログラムを作成した。春の総会が次回理事会までに東部の予備的な名簿を作成することにした。会員審査が行われ、入会

希望者五名について、四名が正会員として、一名が準会員として入会を認められた。また、正会員二名の退会が認められた。四月十三日(金)午後六時三十分から八時五十分まで、お茶の水学生キリスト教会館旧館四一五号室で、理事会が持たれた。出席者八名。欠席者十四名。一九八四年度は、神学会の在り方と理事会の構成を再検討することにした。

五月七日(月)午後一時三十分から八時四十五分まで、お茶の水学生キリスト教会館新館九階ホールで、第十五回総会・シンポジウム・講演会が開かれた。午後一時三十分から二時までの礼拝では、山口勝政氏が説教、司会が藤原導夫氏。午後二時から三時までの総会では、議長が丸山忠孝氏、書記が大滝信也。午後三時から五時までのシンポジウムでは、「B・B・ウーフィードの聖書論を巡って」のテーマで、上沼昌雄氏、宮村武夫氏、丸山忠孝氏がそれぞれ発題した。司会は津村俊夫氏。午後七時から八時四十五分までの講演会では、葛田公義氏が「クリスチャンライフの神学——在来の西洋神学の考察と聖書神学への招き——」と題して講演。司会は大滝信也。

六月十八日(月)午後七時から九時まで、お茶の水学生キリスト教会館九〇一号室を会場に、特別研究会が持たれた。テーマは、「最近の福音派における聖書批評学の動向」。講師は、ダラス神学校のノーマン・ガイスラー博士。

なお、部門研究会の研究発表は左記の通り。

一九八三年九月三十日(火)(新約部門会)

「ヨハネの福音書の教会論」 三上章氏

一九八四年二月十三日(月)「高度技術社会と倫理」研究会

「何が問題か」 稲垣久和氏

四月十六日(月)「高度技術社会と倫理」研究会

「生命科学と神学」 上沼昌雄氏

六月二十五日(月)「高度技術社会と倫理」研究会

「創世記」一三章における人間論 津村俊夫氏

中部部会活動報告

中部部会理事長

黒 川 雄 三

一、八四年度中部部会総会報告

日時 一九八四年五月十四日(月) 一〇・三〇～一二・〇〇

会場 愛知県中小企業センター

議事

- (1) 前年度行事報告、会計報告を承認。
- (2) 新年度行事計画および予算を承認。
- (3) 理事の改選、黒川雄三、鈴木健之、牧田吉和、内村サムエ

ル、安村仁志の五氏を選出。(総会後の理事会において、役務分担を次のように決定した。理事長—黒川、書記—内村、会計—鈴木、編集—牧田。

二、八四年度公開講演会

日時 一九八四年五月十四日(月) 一三・〇〇～一六・三〇

会場 愛知県中小企業センター

「創世記一三章の解釈をめぐって——その歴史性とのかわり——」 津村俊夫氏

参加者 一六名

三、その他

◇八四年七月三十一日現在会員数

名誉会員一、賛助会員一、正会員三〇

◇八四年秋の研究発表会

日時 八四年十一月十二日(月) 一三・〇〇～一六・〇〇

会場 同盟福音金山教会

主題 説教論

発表者 内村サムエル氏

※なお、この研究発表会を、会員相互の交流の場となるよう、プログラムを考慮している。

◇八五年度総会および公開講演会は、85年五月十三日を予定、講師および主題は未定。

西部部会活動報告

(一九八三年七月より一九八四年六月まで)

西部部会書記

高橋 久之

一、第九回西部部会総会

一九八四年五月一四日(月) 神戸基督改革宗長老教会にて

議事

- (1) 前年度活動報告ならびに決算報告の承認
前年度九九〇一〇円の赤字が、一九三三七円の黒字決算となった。

- (2) 新年度の活動方針の説明承認
前年度に引き続き、四国、九州地区の活動の強化、援助をする。

- (3) 理事改選
そのため、山中猛士氏、窪寺俊之氏を九州地区、鈴木英昭氏を四国地区の活動の円滑化を目的として理事待遇とする
予算案についての説明の後これを承認す。

任期満了に伴う改選理事六名は、
安田吉三郎、工藤弘雄、片岡伸光、清水洎、村田充八、高橋久之の諸氏が選ばれた。

なお、今年度の理事は前記六氏の他、鍋谷堯爾、服部嘉明、有賀喜一、橋本竜三、畠野隆、中島守の六氏計十二氏である。

研究発表

「日本の福音主義教会の位置づけ——世界の教会の中で——」
のテーマのもとに次の三氏に研究発表をしていただいた。

改革派 高松教会 牧師 鈴木英昭氏
改革派 新居浜教会牧師 小野静雄氏
近畿福音ルーテル榎原教会牧師 橋本昭夫氏

全体 司会

大浜教会 牧師 鷹取裕成氏

二、理事会活動

- 一九八三年十一月七日、神港教会にて
主要議事

- (1) 西部部会会員名簿作成、鈴木英昭氏脱落の他いくつかのミスを訂正。
- (2) ペイン理事病氣帰国
新入会員の受け入れ
橋本昭夫氏(近畿福音ルーテル教団牧師)
一九八四年度の活動方針について
前年度総会の懸案である定員ワクの方向づけについて

- (4) 四国、九州地区活動強化方策について
学会誌の内容について

- 一九八四年一月五日 鍋谷理事宅にて
主要議事

- (1) 第二回研究会議の結果について
(2) 新入会員の受け入れについて
ホアス氏(神戸ルーテル神学校教授)
(3) 一九八四年度総会の準備

- 一九八四年三月二十六日 工藤理事宅にて
主要議事

- (1) 実務にたずさわっている人への配慮について。
学会ニュースの編集協力者(多久和氏) 会計実務担当者(小倉さん)等、今後予算面で配慮する方向で検討する。
- (2) 新入会員の受け入れ
中島光男氏(神戸ルーテル神学校学生)を準会員として、他会員の異動について。
- (3) 第九回総会の準備
- (4) 第二回合同研究会議の際の剰余金処分について
同剰余金を学会誌発行のための基金に繰り入れることを提案する。
- (5) 学会誌印刷について

西部部会で編集、印刷、校正実務を行うための準備を始める。

- 一九八四年五月十四日 神港教会にて

主要議事

- (1) 理事の役務分担について
前年度の役員が、それぞれ留任する。
- (2) 新入会員の受け入れその他について
高橋博氏(世界福音伝道団牧師)、竹田浩氏(日本バプテスト連盟牧師)の二氏を正会員として、金聖基(在日大韓基督教会伝道師)、津村春英氏(大阪基督教短大生)を準会員として。なお中村二郎氏(準会員)が名簿より脱落していたので訂正する。
- (3) 学会誌の印刷について
鍋谷理事より提出された調査結果とその提案について検討した。

「福音主義神学」執筆についてのお願い

日本福音主義神学会編集委員会

一 文体、用語

原則として文体は国語体、漢字は常用漢字、仮名づかいは現代仮名づかいを使用した平明な表現でお願いします。原稿はタテ書、四〇〇字詰原稿用紙を用いること。論文中のヘブル語の表記は音写による（カナまたはラテン文字）。ギリシャ語の原文のまま使ってください（特にアクセント、ブリーディングを正確に付けて下さい）。

二 枚数

論文は四〇〇字詰原稿用紙四〇〜四五枚、紹介、書評は五〜一〇枚程度といたします。枚数が超過して提出された場合、書き直しをお願いすることがあります。

三 締切期日

論文は毎年六月末日までに所属する部会（東部または西部）の編集者に提出して下さい。書評、紹介等は七月十五日まで。

四 論文、書評の依頼は編集委員会が行ないますが、論文を投稿することもできます。この場合は所属部会の編集者に原稿を提出し、編集委員会の審査を受けることになります。いずれの場合にも、原稿の最終取捨選択権は編集委員会にあります。

五 注記

注は本文の後に通し番号を付け、一括して下さい。引用文献等の表記の仕方は別記参照のこと。

六 校正

論文の再校以降は原則として編集委員会で行ないます。なお、校正時における訂正は最少限にし、する場合にも、ほぼ同一字数内での差替えを原則とし、数行にわたる組替えを必要とする加筆、削除等は御遠慮下さい。

七 原稿料

原稿料は支払いません。論文については会誌を五部、書評等に対しては二部を執筆者に贈呈いたします。

八 英文概要

論文は英文による概要をタイプ用紙一枚程度にタイプし添付して下さい。

文献の表記の仕方について

一 邦語文献

(イ) 単行本

- ① 佐々木順三『教会暦年の研究』（聖公会出版社、一九三九年）五四頁。
- ② ルネ・パーシュ『イエス・キリストの再臨』（いのちのことば社、一九七八）五三―四頁。
- ③ 岸本通夫「印欧語の移動とヒッタイト王国の台頭」『岩波講座、世界歴史』I（岩波書店、一九六九年）一六一―三頁。

(イ) 論文

- ④ 五島勝「キリスト論的称号の扱いに見るルカの姿勢」『福音主義神学』第二号（一九八一年）五三―四頁。
- (イ) 以前に引用した本をつづいて引用する場合
- ⑤ 前掲書 三二頁（または同頁）。
- (ロ) 間に別の本が入っている場合
- ⑥ ルネ・パーシュ『イエス・キリストの再臨』（著者名と書名だけ。前掲書を用いない）。

二 外国語文献

一般原則は次の本を、表記の具体例は(a)以下を参照してください。

Kate L. Turabian, *A Manual for Writers of Term Papers, Theses, and Dissertations*. 4th ed., Chicago: The University of Chicago Press, 1973.

(a) Books

One author

Paul Tillich, *Systematic Theology*, 3 vols. (Chicago: University of Chicago Press, 1951-63), p. 9.

Three authors

Bernard R. Berelson, Paul F. Lazarsfeld, and William McPhee, *Voting* (Chicago: University of Chicago Press, 1954), pp. 93-95.

More than three authors

Jaroslav Pelikan et al., *Religion and the University*. York University Invitation Lecture Series (The University of Toronto Press, 1964), p. 109.

Editor as "author" (same form used for compiler)

J. N. D. Anderson, ed., *The World's Religions* (London: Inter-Varsity Fellowship, 1950), p. 143

Article in a journal

Don Swanson, "Dialogue with a Catalogue," *Library Quarterly* 34 (December 1963): 115.

(b) "Ibid."

When references to the same work follow each other without any intervening reference, even though

the references are separated by several pages, the abbreviation "ibid." for the Latin *ibi*dem, "in the same place" is used to repeat as much of the preceding reference as is appropriate for the new entry:

¹ Max Plowman, *An Introduction to the Study of Blake* (London: Gollancz, 1952), p. 32. [A first, and therefore complete, reference to the work.]

² Ibid.

[With no intervening reference, a second mention of Plowman's work requires only "ibid." Notice that "ibid." is not underlined.]

³ Ibid., p. 68.

For a book, a second or later reference to a work already cited in full form, but not in the reference immediately preceding, *omits* the facts of publication, series title, if any, edition (unless more than one edition of the same work has been cited), and total number of volumes. Thus pared down, the reference consists of author's last name, title of the work, with page, and volume number as well, if necessary. Note the full reference in footnote 1 and a later reference to the work as shown in (arbitrarily numbered) footnote 9

¹ Gabriel Marcel, *The Mystery of Being*, 2 vols. (Chicago: Henry Regnery Co., 1960), 1: 42.

⁹ Marcel, *Mystery of Being*, 2: 98-99.

編集後記

福音主義神学会会誌第十五号を、学会員の皆様と、この学会のために祈り、関心を寄せて下さる方々のお手許にお寄せできることを感謝している。

序文に服部嘉明氏が述べておられるように本誌の内容は、第二回神学研究会議の主題である「今日における福音主義聖書論」であり、東山荘での発表者の数氏の方々に手直ししていただいたものに、斉藤、橋本両氏の原稿を加えさせていただいた。それは、来年秋東京で予定せられている創立十五周年記念研究会議の主題「釈義から説教へ」への緒論的役割をも果たすことが期待せられているからである。

☆ ☆ ☆

今号における今ひとつの特徴は、編集、印刷、発送の業務一切を西部部会で行い、代って東部部会にニュース発行をお願いしたことである。とりあえず三年間ということで、色色な実験を試みることにした。ひとつは発行部数をできるだけおさえ、経費を節約することによって単価を安くすること。広告収入をはかることにより、将来の若い研究者を育てる基金をつみたてること。本会の趣旨に賛同して、少くとも出版基金だけは充足されるような献金を募ってゆくことなどである。本号において

実現しなかったことは、これまで賛助会員として本学会を支えて下さった諸教会、諸学校、諸団体、有志の方々の名をあげる事ができなかったこと。会員の学的研究業績をまとめることができなかったことである。また、若い方たちの研究発表がどんだんのせられるような構造的面での改革も必要であるかもしれない。

とまれ、来年は創立十五周年。ひとつの小なりといえども歴史的反省と展望のためのよい節目となる学会誌ができるよう会員の皆様の御意見、御協力をお待ちしている。

終りに、この学会誌編集の実際の実務の労をとって下さった村田充八氏、イマイ印刷株式会社との橋わたしの労をとって下さった服部嘉明氏に感謝を申しあげたい。

(編集委員 鍋谷 堯爾)

一九八四年十一月五日発行

定価 一七〇〇円

編集者

山口 昇
牧田 吉和
鍋谷 堯爾

発行者

神戸市中央区中島通二一三―五
神戸ルーテル神学校内
日本福音主義神学会

印刷

イマイ印刷株式会社
大阪市城東区関目一―〇二六